

はじめに

協力について学ぶことで、子どもたちは、壁をつくるスキルではなく、橋を架けるスキルを高める。

背景

小学生時代は子どもたちにとって、同年代の仲間や周辺の大人との関わりを通して、自分というものを確立してゆく時期です。この時期に、聞くこと、分かち合うこと、順番を待つこと、もめごとを解決すること、そして人に対して気持ちよく接することなどを学んだ子どもたちは、仲間と協力しながらうまく活動に取り組むことができ、思春期、青年期、さらに大人になってからも、他者との思いやりのある関係を結ぶことができます。一方、これらの能力を十分身につけられなかった子どもたちは、対人関係がうまくいかず、学業不振、少年犯罪、薬物使用などの問題行動につながるリスクが高くなります。ただ、幸いなことに、子どもたちが“今”これらの能力を身につけていないとしても、“これから”身につけることは可能です。

ピアジェ (Piaget) やコールバーグ (Kohlberg) らの研究によると、対人関係能力は小さな子どもの時期から大人の時期まで、発達段階に沿って長い時間をかけ、順番に積み重ねるように育ってゆくことがわかっています。一つの発達段階を出ていつ次の発達段階に入るかは、人により異なりますが、もし、目標となる良いモデルや大人の適切な支援があれば、子どもたちは次の段階に進めずにそこに取り残されることなく成長することができるでしょう。

単元の概要

単元2『なかまとともに大きくなろう』は、他者と力をあわせて活動することや、うまくコミュニケーションをとるために不可欠な、対人関係スキルの強化に焦点を当てています。そのため授業では、これらのスキルを学び、練習し、活用するためのさまざまな場面を設けています。

この単元で子どもたちは

- ◇ 上手に話を聞く方法を知り、練習します
- ◇ グループ活動を通して、自分に与えられた責任を果たします
- ◇ 友だちが自分たちに怒りをぶつけてきたとき、それにうまく対処する方法を学習します
- ◇ 他者に友情を表現する方法を学習します

「協力」は良い人間関係の基本です。授業はその「協力」の大切さを体験できるよう、2人組 (ペア) や小グループでの活動を中心に進めます。子どもたちは集団の一員として、道具係や発表係などの、それぞれの役割を果たし、仲間と力を合わせ活動に取り組みます。

重要なことは、子どもたちは活動全体を通して学ぶということです。授業はまず先生が示した「協力のためのスキル」の学習から始まります。そして、そのスキルを子どもたちが実際に試し、失敗すればそれについて話し合い、うまくいくまでやり直します。子どもたちも先生も、途中でイライラすることがあるかもしれませんが、それもふくめて、子どもたちがグループで取り組む活動のすべてのプロセスが学習なのです。新しいスキルを身につけるための苦しみは、きっと成功体験が吹き消してくれるでしょう。

「あきらめないで続けること、これが大事です」と、ある学校の校長先生は報告しています。「どの学年の子どもた

ちも、特別な準備をせずグループ学習に取り組んでいます。先生たちは、こんなことは幼稚園児のすることだなどは考えないのです」と。

指導者へのヒント

以下は、この単元の授業で子どもたちが「協力するためのスキル」を身につけ、より上達させるための学習方法の例です。

1. 「協力」を、教室での態度と行動の両面でのキーワードとします。そして協力のためのスキルを子どもたちに提示し、教科と同じように学習内容を明確にして、計画的に教えます。
2. 子どもたち到你が期待する行動を具体的に示します。例えば「お互いに親切にしましょう」という言い方はあいまいで、具体性に欠けます。それよりも「ボールは代わりばんこに使おう」の方が具体的です。
3. 協力の象徴となるシンボルマークを、掲示板やクラスの旗、学級文集、共同作品などに入れましょう。
4. 他の教科などでも、子どもたちが集団の一員として協力するためのスキルを使う機会を設けてください。図工の時間に道具を配る場面、国語でお話を聞きあう場面、生活科でのグループ活動、算数で図形を見つける場面などです。
5. 体育の時間や休み時間に、運動場で遊ぶゲームとして「協力」を必要とし勝負のないゲームを紹介してください。
6. 教室や運動場で対人関係スキルをうまく使っている子どもを見つけたら、それを学級で紹介してください。
7. グループを作る場合には、学力、社会性、性別などを考慮し、多様でバランスの取れたものになるようにしてください。そして、“成功”は結果ではなく、グループの子どもたち全員が、力を合わせて活動に取り組むことが出来たかどうかを判定基準としてください。
8. 他者の良いところを褒める言葉を言わせてください。たとえば「あなたの絵は素敵だね」、「君はとてもいいリーダーだ」など。

子どもたちが話を聞くこと、分かち合うこと、お互いに協力することを学べるよう、あなたが支援することは、実は子どもたちに、自分の欲求と他者の欲求のバランスをとることを教えているのです。これは、生涯にわたって他者と協力し、よい人間関係を築いていくための重要なステップです。

